

2012 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2012 年 10 月 3 日（水）～5 日（金）

懇親会
第 3 日（10 月 5 日）
午前：口頭，ポスター
午後：口頭
2. 会 場

北海道大学 学術交流会館（他：クラーク会館）
札幌市北区北 8 条西 5 丁目（他：北海道札幌市
北区北 8 条西 8 丁目）
<http://www.hokudai.ac.jp/>
会場には駐車スペースがないため、公共の交通機
関でのご来場をお願いします。
3. 研究発表

気象学に関する学術成果の研究発表を募集します。
研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要
領」をご参照下さい。
4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 3 日）
午前：口頭
午後：口頭，ポスター

第 2 日（10 月 4 日）
午前：口頭
午後：授賞式，受賞記念講演，シンポジウム，
5. シンポジウム

大会第 2 日（10 月 4 日）の午後に学術交流会館大
講堂にて開催予定です。テーマは「気象学が地域の未
来にいかに関与できるか？ ～これからの北海道の
地域づくりと気象学の研究～」です。
6. 懇親会

大会第 2 日（10 月 4 日）の夕刻（18:30～）に、ア
スペンホテルにて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2012 年 6 月 5 日（火）開設
予定】

本大会では、大会ウェブサイトを、2012 年 6 月 5
日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や
大会プログラムなどの詳細につきましては、こちら
をご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会
ホームページ（<http://www.metsoc.or.jp/>）をご参照下
さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

天気本号掲載の「日本気象学会 大会発表規定」を
熟読の上、講演の申し込みを行って下さい。
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで
行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付で
きない場合や、クレジットカードによるオンライン
決済ができない場合など、止むを得ない事情がある
場合は、郵便振替による申込を受け付けます。
なお、大会参加登録・参加費支払済みであること
を講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。
- 1.1 オンライン（クレジットカード決済）による申
込
 - ・締切：2012 年 7 月 3 日（火）15 時（日本時間）
 - ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申し込
みをして下さい。
 - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パス
ワードの登録を行います（前回の ID・パスワード

はそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報とID・パスワードの登録を行ってください。このIDとパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行ってください。大会参加登録と大会参加費の決済が済んでいない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご通知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(7月3日(火))までは、ウェブサイト上で、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵便振替による申込【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2012年6月26日(火)(消印有効)
(オンライン申込よりも1週間早い締切となります。ご注意ください。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。

- ① 大会予稿原稿
- ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
- ③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項参照)

送付先(電子メールの場合)：

kouenikaku2012a@netsoc.jp

(件名に「講演申込2012a」と明記して下さい。)

送付先(郵送の場合)：

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - 一口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2012年度秋季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
 - ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
 - ④大会参加費金額
 - ⑤懇親会費金額
 - ⑥合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表については、柔軟に対応しますので講演企画委員会(kouenikaku2012a@netsoc.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加申込方法

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンライン（クレジットカード決済）による申込

2012年8月21日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む（クレジットカード決済のみ）。

2.2 郵便振替による申込【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

・2012年8月14日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込む。

－口座番号は「00130-3-5958」，

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

①「2012年度秋季大会参加申込」と明記

②大会参加種別（聴講者）

③大会参加費金額

④懇親会費金額

⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名と振り仮名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担をお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金でお支払いください（当日料金は前納と比べて割高となりますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—

講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。

・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することができます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	5,000 円

3.3 その他

・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却しません。

・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更は行いません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送

する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

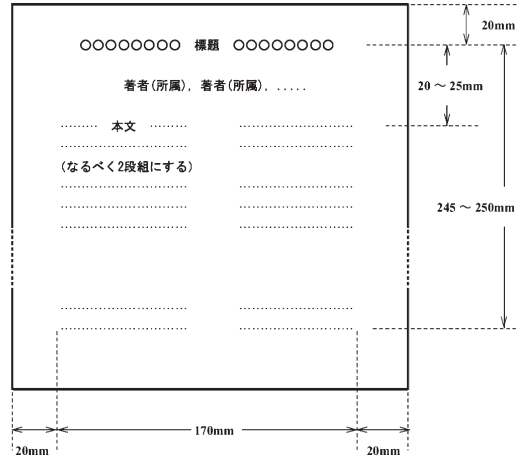
原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

5. 著作権

大会予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 7 月 3 日（火）、郵送申込は 6 月 26 日（火））です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。
- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦180 cm×横90 cm程度です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表(スペシャル・セッションを含む)につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターの使用に当たっては、以下の点に留意して下さい。
 - ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。

ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の6件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

1. 「インド洋におけるMJO研究－CINDY2011」

趣旨：熱帯における代表的な季節内変動であるマッデン・ジュリアン振動の発生過程の解明を目指した国際集中観測CINDY2011 (Cooperative Indian Ocean experiment on intraseasonal variability in the Year 2011) が2011年10月から2012年1月にかけて15以上の国と地域からの参加を得て実施された。

集中観測にはモルディブなどの島嶼サイトや「みらい」など計4隻の船舶を用いた観測だけでなく、数値モデルによる予測・シミュレーション・再解析と様々な形での参加が実現した。期間中3つのMJO現象を観測し、同海域における大気と海洋の貴重なデータセットを取得した。本セッションでは、CINDY2011における結果速報の他、インド洋から太平洋にかけてのMJOと関連する現象に対して最新の知見を交換することを目的とする。このため集中観測参加者以外からの発表も歓迎する。また集中観測終了から1年でデータが一般に公開される予定であり、さらなる研究発展のため、潜在的なユーザー発掘の一助になることも期待している。

世話人：米山邦夫 (JAMSTEC)、 那須野智江

(JAMSTEC), 高藪 縁 (東京大学), 竹見 哲也 (京都大学), 増永 浩彦 (名古屋大学)

2. 「気象学・気候学における理論的・数理的展開」

趣旨: 気象学・気候学における研究では, さまざまな理論的なアイデアに思いを巡らせたり, あるいは数理的なアプローチを試みたりする場面がある. 本スペシャル・セッションでは, データ解析・数値モデリングといった研究手法を問わず, 対象とする現象や領域を問わず, 幅広く理論的なアイデアや数理的なアプローチを集めることで, 研究を主導する本人だけの思考の楽しみを分かち合い, あるいは研究上立ち足はかかる数理の困難をみんなで考えるという, 学会の場ではできそうのできないことを試みたい. 数理科学者など他分野との連携についても議論したい. なお, すでに学会にて講演済みの内容をベースとした話題提供でも, 日ごろ感じている問題意識を中心とした話題提供でも構いません.

世話人: 稲津 将 (北海道大学 大学院理学研究院), 堀之内 武 (北海道大学 大学院地球環境科学研究所), 三浦 裕亮 (東京大学 大気海洋研究所)

3. 「大気微量気体およびエアロゾルの同化とその気候研究への利用」

趣旨: 大気環境の監視と予測及びその気候への理解に向けて, 大気微量気体とエアロゾルのデータ同化は重要な開発課題である. データ同化により, 衛星搭載センサなどにより取得される様々な観測情報を統合し, 時空間に連続した信頼性の高いデータセットを得ることが期待される. 大気微量気体とエアロゾルの濃度は, 化学反応や地表面排出/吸収により複雑に変動するため, それらの解析には高度なデータ同化技術が必要である. 一方で, 大気輸送のデータ同化には共通の課題も多い. データ同化による解析値は大気汚染を引き起こすプロセスや温室効果気体の濃度変動を理解する上で有用な情報となる. 欧米の研究機関を中心として関連研究が活発に進められている状況にあり, 日本国内においても, 多くの研究者と情報を積極的に交換しながら, これまでに開発された同化システムの課題を克服しデータ利用の促進を図ることが望まれる. 本セッションにおいては, 対流圏下

層から中層大気に及ぶ大気微量成分のデータ同化研究について広く議論することを目的とする.

世話人: 岩崎俊樹 (東北大学), 宮崎和幸 (海洋研究開発機構), 関山 剛 (気象庁気象研究所), 五藤大輔 (東京大学), 中島映至 (東京大学), 弓本桂也 (気象庁気象研究所), 鶴野伊津志 (九州大学), 塩谷雅人 (京都大学)

4. 「気象情報の活用および気象予報士の役割について」

趣旨: 昨年は, 大震災の後も前線や台風による記録的大雨で大規模な災害が発生し, この冬には記録的な寒波・豪雪となりました. 気象技術の進展により, 気象情報が質・量ともに急速に充実し, 確率情報や各種の画像情報も提供されています. 局地的で短時間の極端現象では, 生命を守るためには住民が受け身ではなく自ら適切な判断をすることが求められ, 防災情報を自ら取得し, 現象と情報の内容を理解することが必要です. 気象予報士は, 気象予測の作成だけではなく, 報道等を通じた解説や防災関係者・一般住民を対象とした講演会等, 様々な場面で防災知識の普及・啓発に貢献しており, 2012年4月1日現在では8422名が気象予報士として登録されています. 日本気象予報士会は気象庁と連携し「国民の安全安心に向けた知識の普及啓発活動」の全国展開を推進していますが, 昨年に続き, 気象情報の作成, 伝達, 関連知識の普及・訓練に携わる人々の, 日ごろの研究成果とともに気象予報士の役割について考えたいと思います.

世話人: 與語基宏 (日本気象予報士会), 輪島 淳 (札幌管区气象台), 酒井重典 (日本気象予報士会), 岩田 修 (日本気象予報士会), 金村直俊 (日本気象予報士会北海道支部長), 杉山公利 (日本気象予報士会), 弘中秀治 (宇部市防災危機管理課), 難波良彰 (日本気象予報士会), 白石 晶二 (日本気象予報士会)

5. 「惑星大気科学の課題と将来の探査計画」

趣旨: 2015年頃に観測開始予定の金星気象衛星「あかつき」に引き続き, 火星複合探査計画 MELOS の検討が進行中である. MELOS は気象観測を主目的とする周回機と着陸技術獲得を主目的とする小

型の着陸機で構成される予定である。火星では浮遊ダストの放射効果が大気力学に大きな影響を与えており、火星気象の理解のためにはダストの巻き上げ機構や様々な規模で発生するダストストームの解明が不可欠である。また、地質学的証拠から火星は大きな気候変動を繰り返してきたと考えられており、そのような気候遷移のプロセスや現在の火星がなぜかくも寒冷であるのかを解明することは惑星の気候の多様性を理解する上で重要である。近年の欧米による探査により火星表層に豊富な水が存在することが判明し、火星の水循環も興味を集めている。こうした課題に取り組み、観測事実を整合的に説明しうる火星気象学を構築することは、惑星大気科学に課せられた使命の一つである。本セッションでは、火星をはじめ、惑星大気に関する観測的・理論的研究の現状を整理するとともに、今後実施すべき探査計画について議論する。金星や木星など火星以外の惑星の大気に関する講演も歓迎する。

世話人：今村 剛 (JAXA 宇宙科学研究所)、高木 征弘 (京都産業大学理学部)

6. 「次世代のスパコンが拓く超高精度メソスケール気象予測」

趣旨：数値モデルによる気象予報の精度は近年目覚

ましく向上しているが、その一方で集中豪雨や局地的大雨など災害につながる顕著現象の予測精度はまだ十分といえない。顕著現象の予測が難しい原因として 1) 数値モデルの初期値の精度が現象のスケールに対して十分でない。2) 僅かな初期値や計算条件の違いで結果が大きく変わることがある。3) 現在の数値予報の格子間隔では積乱雲を直接表現できていない。などがある。これらを解決するためには、高精度の初期値を作成して雲を解像する数値モデルで多数の予報を行う必要があるが、膨大な計算資源を必要とするため、これまで本格的に取り組むことが出来なかった。計算資源に関しては、次世代スパコン「京」の共用開始が 2012 年夏以降に予定されるなど、研究環境が大きく変わりつつある。ここでは、「京」に代表されるような次世代のスパコンに近い将来利用可能になるであろうことを念頭に、メソスケール顕著現象の高精度予測と高解像度大気モデルを用いた基礎研究について、現時点での到達点と課題について確認したい。HPCI 戦略プログラム課題参加者以外からの投稿も歓迎する。

世話人：齊藤和雄 (気象研究所/海洋研究開発機構)、露木 義 (気象研究所)、瀬古 弘 (気象研究所/海洋研究開発機構)、木村富士男 (海洋研究開発機構)

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことはできません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の

講演を認める (予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること)。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直

前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対

し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2012a@metSOC.jp）に申し込んで下さい。

申込期限：2012年7月3日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介致します。

- ・北海道大学事業所内保育所「ともに」
住所：札幌市北区北7条西9丁目

電話：011-706-2151

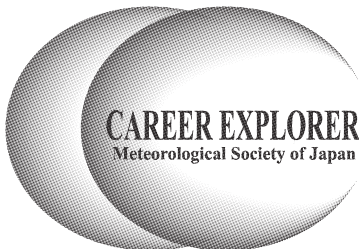
URL: <http://tomoni.ist.hokudai.ac.jp/tomoni.html>
(個人での申込となります.)

IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを2009年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。(同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。)

2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、

またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさと挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。